

令和2年度 学校評価を終えて

市川南中学校

1 目的【学校教育法第42条を根拠とする】

学校教育法第42条により、「小学校(中学校)は文部科学省の定めるところにより、教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、教育水準の向上に努めなくてはならない。」とあります。

本校では、4月に学校長より提示された学校経営方針に基づいた市川南中学校の教育活動が適正に運営されているかを評価し、今後に向けて対策を講ずることを目的とし実施します。

2 実施計画

- 1 2月 2日(水) 職員会議(項目・内容検討)
- 1 2月 14日(月) 生徒アンケート実施 教職員・保護者に配付
- 1 2月 21日(月) 教職員・保護者アンケート提出メ切
 - 1月 8日(金) 職員会議にてアンケート結果の考察および改善策の検討
 - 2月 3日(水) 職員会議にて再確認
 - 2月 24日(水) 学校評価者委員会
 - 2月 25日(金) アンケート結果の考察と改善に向けての方向性を保護者に公表
 - 2月 26日(木) 学校評価の概要を教育委員会に提出

3 評価に対する考察及び改善のための手立て・方向性

・数値=[生徒・保護者の平均] ※最高値(4)

(1) 教育目標について

①教育目標	保護者3.24
②目指す生徒像	保護者3.35

本年度は教育目標等を学校グランドデザインに明確に示し、学校ホームページにおいても啓発を図ってきました。「確かな学力を持ち、主体的でたくましく生きる生徒の育成」という目標と目指す生徒像の実現に向け、具体的に何を行い、どんな変容が見えてきたかなどをさらに積極的に発信していく必要があると感じています。今後も、日々の授業改善、教職員の指導力と組織力の向上をめざし取り組んでいきます。

(2) 学習面について

③基礎・基本	生徒3.94	保護者3.06
④学習への関心・意欲	生徒3.82	保護者2.94
⑤心の教育	生徒3.94	保護者3.30
⑥学習指導・進路指導	生徒3.94	保護者3.11
⑦学習の評価	生徒4.00	保護者3.00
⑧言語活動と情操教育	生徒3.88	保護者2.82

③「先生たちは、授業をわかりやすく、丁寧に教えてくれている」という評価をはじめ、生徒の評価は高いプラス評価となっています。特に⑦の「先生たちは、学習の評価を適切にしてくれている」では、4.00と100%のプラス評価でした。一方、保護者の評価では、④の「学校では、生徒のために興味ある授業を工夫して行っていると思う」は2.94、⑤の「学校では命の大切さや社会のルール等、道徳・人権について学ばせていると思う」の保護者の評価は学習面の項目の中で最高値となっています。

⑦の「学校は、お子さんの学習へのへの関心・意欲・態度、学力や技能等を総合的に、適切に評価している」は3.00と、生徒の評価の割合に比べ下がっています。

③の「基礎・基本」④の「学習への関心・意欲」に関わって、今年度は、指導の重点の一つに「ICT機器の有効活用」を掲げました。授業では、個々の調べ学習を中心に活用し、学習への関心や意欲を高めていくことに取り組んできましたが、活用の方法には課題が残りました。来年度は、GIGAスクール構想により、1人1台の学習者用PCが整備されると同時に、本校では、全教科においてデジタル教科書を導入します。それらを工夫して活用していくことにより、授業での一斉学習、個別学習、協働学習において生徒一人一人の学びの深まりが期待できます。その実現に向け、教員のICT活用指導能力を高めるための研修を深め、子どもたちの学習意欲を引き出し、「わかる授業」の実現に取り組んでいきたいと思えます。

⑤の「心の教育」に関わって本校では、さまざまな困難や悩み、ストレス等への対処方法を身につける「ストレスマネジメント教育」を全校体制で継続的に実施しています。自分も相手も大切にしていけるように育てていく重要な学習であると共通理解し、教育課程に位置づけています。生徒の学習の振り返りでは、毎時間、自己効力感が高まっている様子がうかがえる記述があります。この学習の長期的なねらいは、社会に出てからもストレスと上手につき合える、健康的な生き方ができること、間違っただ思い込みや偏見を持たない自立した人間の形成を図っていくことにあります。今後も本校の特色の一つとして職員も学び合い、指導の充実を図っていきます。

また、今年度は本校のスクールカウンセラー志村先生による授業「コロナ禍

今キミにできること」と題し、新型コロナウイルス感染症による差別や偏見をなくして、よりよく生きるためにできることについて学びました。今後も、子どもを取り巻く社会の状況をしっかりと見つめ、生徒の健やかな成長のためにできることを大切にして支援していきます。

⑦の「学習の評価」については、保護者の評価が生徒より1.0ポイント低くなっています。学校では、公正・公平な評価を常に心がけ実施しています。しかし、そうでないと感じている実態があることを重く受け止め、評価に対する根拠などを丁寧に説明するなどして理解が深められるよう努力していきます。

⑧の「言語活動と情操教育」「お子さんは、読書活動や合唱活動に取り組むことで豊かな感性が育っていると思う」では、特に低い結果となってしまいました。新型コロナウイルス感染症の影響で、合唱活動は著しく制限され、音楽発表会の実施もできないままでしたが、3学期の生活参観週間中に、規模を縮小し、何とか開催することができました。参観いただいたご家族の皆様からは次のような感想をいただきました。

「少人数のなか、キラリと光るものがあった」

「胸にグッとくるものがあった。色々制限されている中でとても癒やしになった」

「先生方が一緒になってくれたのですばらしい歌声を聴かせてもらった」

「孫がこんなに優しく元気でうれしい」

「何かに一生懸命に取り組む体験や夢中になれるものがあることがありがたい」

「歌ってステキだなと改めて思った、心を和ませてくれた、アンコールしたかったと、帰り道に話題になった」

「なぜだか聴いていると泣きそうになるくらい感動した」

今後も合唱活動や読書活動をはじめ、豊かな心を育む教育活動を創意工夫して行っていきたいと考えています。

(3) 生活面について

⑨充実した学校生活	生徒3.76	保護者3.24
⑩いじめ対応	生徒3.82	保護者2.76
⑪生徒理解	生徒3.88	保護者3.12
⑫健全な体づくり	生徒3.82	保護者3.18
⑬勤労意欲	生徒3.76	保護者2.94

どの項目においても保護者の評価は生徒より低くなっています。

特に注目すべきことは、⑩の「学校は、いじめなどのない学校づくりに取り組み、問題が生じたときには、その解決に向けて速やかに対応してくれる」⑪の「学校はお子さんに親身になって接してくれていると思う」です。

⑩いじめ対応⑪生徒理解に関わって、「部活動再編に関わる件」において「子どもたちの気持ちに寄り添った再編案及び説明とは感じられなかった」との記述

がありました。学校としては、学年を越えた集団の中で協調性、責任感、連帯感を育成できるより充実した部活動をめざしての再編案でしたが、保護者の理解を十分に得ることができませんでした。今後は、生徒、保護者の気持ちを十分に理解しつつ、今できる最善の方法を持って部活動の指導にあたっていきたいと思いをします。

また「小規模校のため、人間関係でも悩んでいる子どもに対して、親としてどのように学校に協力していけばよいかわからない」という記述もありました。学校では、日頃から生徒の様子に気を配ることや声かけを積極的に行い、状況に応じて個別に対話をするなど、生徒の心に寄り添う支援を心がけてきましたが、保護者に不安な気持ちを与えてしまった場面もありました。人間関係に悩みや不安を感じている生徒が、学校で心のうちを相談でき、保護者との連携を通して、よりよい人間関係づくりを支えられるよう、まずは生徒・保護者との信頼関係を築いていくことを第一に取り組んでいきたいと思いをします。

一方、保護者の記述に「良いことやがんばったことを当たり前とせず、クラスを越えて先生方に声をかけてもらい、褒めてもらって、とても励みになっている」とありました。これまで以上に、一人一人の良さを認め励ますこと、そして生徒との対話の時間を大切にし、授業をはじめ、日常での会話や生活ノートの記述、家庭学習ノートでのやりとり等により生徒理解を深めていきたいと思いをします。また、生徒の成長や変容などは、機を逃さず、丁寧に保護者に伝達し、理解を得ながら双方向で支援していけるよう努めていきます。また、今後もしじめのアンケート調査の実施の継続や二者懇談を充実させ、すばやい実態の把握と問題解決に努めます。

(4) 地域連携・安全教育について

⑭地域・保護者との連携	生徒	－	保護者	3.35
⑮教職員の対応	生徒	－	保護者	3.65
⑯学校の危機管理	生徒	4.00	保護者	3.30
⑰施設設備の充実	生徒	3.94	保護者	3.24

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、学期に1回の生活参観週間も残念ながら参加者を限定しての開催となりました。そんな中、第1回は13人、第2回は10人、第3回は17人と、昨年度よりも多くのご家族に参観していただくことができました。

⑯の学校の危機管理に関わって、今年度も大規模地震を想定した小中合同引き渡し訓練、予告なしの地震及び火災の避難訓練、町のシェイクアウト参加等に取り組んだほか、町が推奨する「我が家のマイ・タイムライン」について授業で指導し、自分の家庭ならではの避難方法について考え作成することができました。生徒の「自分の命は自分で守る」という意識は向上してきています。また今年度

は小中集団下校を実施する際、中学生として、小学生を守りながら下校する役割を再確認し実施しました。また職員も引率し、通学路に危険な箇所はないか、自宅に着くまでに一人になる区間はどのくらいかを確認しました。今後も自然災害や火災に備え、生徒の防災意識や緊急時での自己対応力を高める指導を行っていきます。

4 全体の考察と対応

本年度も学校長のリーダーシップのもと、市川南中学校の生徒一人一人が主役となり、光り輝きながらいきいきと活躍できる学校運営を行ってきました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、臨時休業をはじめさまざまな教育活動が制限される中、生徒たちは、明るく元気に学校生活を送ることができていることが、何より喜ばしいことでした。しかし保護者の評価からは、まだまだ努力していかなければならない点が浮き彫りとなりました。

平均値で見ると、学習面については、生徒3.92に対して保護者3.03、生活面については、生徒3.80に対して保護者3.04という結果でした。自由記述からは、「学力向上に取り組んでほしい」「学習評価をしっかりしてほしい」「生徒の心に寄り添った指導をしてほしい」「小規模校の特性を生かしてほしい」との要望が出ています。これらのことを真摯に受け止め、努力が足りないことを反省しつつ、改善のためにできることに着手しています。

学校評価を受け、3学期に始めた具体的な取り組みは次の通りです。

- ①家庭学習の充実を図るための、家庭学習ノートへの取り組み方法の改善
- ②学習の基礎・基本の定着を図るための、朝学習の実施

これらの取り組みを通して、一人一人が楽しく学び、わかったことが実感でき、自ら進んで学習する力が身についていくよう、創意工夫して指導していきたいと考えています。

生徒指導においては引き続き、生徒一人一人の個性を大切にし、心の変容に早期に気づき理解して支えられるよう努めていきます。

5 次年度に向けて

◇確かな学力の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、組織的に日常的に授業改善を図ります。

- * ICT機器、デジタル教科書の活用
- * 学習評価の充実
- * 自主学習ノート、朝学習の充実
- * 授業と家庭学習の効果的な連動
- * TTによる教科指導 等

- ◇生徒の心に歩み寄り、寄り添う指導を継続し、信頼関係づくりに努めます。
- *一人一人との日常的な対話や声かけ
 - *個々の良さを認め引き出す支援の充実
 - *心の変容への気づき、いじめアンケートからの迅速な実態把握と問題解決等
- ◇小規模校の良さと特性を生かし、一人一人が活躍でき自己有用感を高めることのできる教育活動を推進していきます。
- *合唱活動，挨拶運動の充実
 - *ストレスマネジメント教育の継続
 - *異学年交流による活動や行事，ゲストティーチャーによる授業の積極的な導入 等
- ◇家庭・地域との連携・協働を推進し，子どもの豊かな学びの実現を目指します。
- *保護者との日常的な対話
 - *生活参観週間の実施
 - *学校の教育方針や生徒の様子に関わる積極的な情報発信
 - *ふるさとキャリア教育の充実
 - *PTA懇談会や三者懇談の充実 等

生徒と保護者の皆様からいただいたご意見を尊重し，全教職員で生徒を温かく見守り，これからも毎日楽しく安心して学べるよう全力で支援してまいります。今後とも引き続きご理解とご協力をお願いいたします。